

レジメンスケジュール

診療科	血液内科
適応	ヘアリー細胞白血病
レジメン	血内クラドリン療法

申請・改訂日	2022年12月
備考	リツキシマブとの併用可

クール関連

使用した臨床データ
添付文書参照

全クール																			
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day2	day3	day4	day5	day28
①		生理食塩液	50mL	メイン	ルートキープ		○	○	○	○	○								終了
②	○	クラドリン 生理食塩液	0.12mg/kg 250mL	メイン	2時間	生理食塩液のみ使用すること	○	○	○	○	○								
③		生理食塩液	50mL	メイン	全開	フラッシュ	○	○	○	○	○								

適応基準(抗がん剤プロトコール申請書より)

白血球数3000/mm³以上、好中球数1500/mm³以上、血小板数100000/mm³以上

減量・中止基準(ロイスタチン注8mg添付文書参照)

特に以下の副作用について注意すること。

副作用	頻度	注意点
①骨髄抑制	リンパ球減少87%	骨髄抑制が発現または増悪し、遷延性に推移することがある。投与開始後最初の1か月間が最も顕著である。特に投与開始後8週間は週1回以上の頻度で血液検査を行うなど患者の状態を十分観察し、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
	好中球減少79.8%	
	白血球減少77.9%	
	血小板減少53.8%	
	ヘモグロビン減少45.2%	
②重症日和見感染	頻度不明	発現時直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
③進行性多巣性白質脳症	頻度不明	発現時直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
④消化管出血	1.0%	発現時直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
⑤重篤な神経毒性	頻度不明	発現時直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
⑥腫瘍崩壊症候群	頻度不明	投与開始時に白血球数の多い患者には、高尿酸血症治療薬の投与や適切な水分補給などを考慮すること。
⑦間質性肺炎	1.0%	発現時直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
⑧重篤な皮膚障害	頻度不明	発現時直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
⑨急性腎障害	頻度不明	発現時直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。